

WADACHI

三つのコンテンツ発信で差別化

コロナ禍でも強い喫茶店



合同会社ワルバロ企画(川崎市麻生区百合丘、☎044-819-8170)が小田急線・百合丘駅近くで運営する喫茶店「轍(WADACHI)」が、コロナ禍でもにぎわいの絶えない人気店となっている。路地裏の目立たない立地ながらも、リピート率8割を実現。秘けつは「三つ」とあるというコンテンツ。単なるコーヒー専門店ではなく、そこに「音楽」、さらに「自転車」の要素を付加することで、オンリーワンの店を実現した。

大手総合印刷会社でセールスプロモーションに携わり、グループ企業で役員を務めていた佐々木義典マスターが2019年に夫婦でオープンした店舗だ。

ただのコーヒー専門店なら差別化が難しい。また「コーヒー」と「音楽」の組み合わせでも、ジャズ喫茶と同じになってしまう。そこで、さらに「自転車」を入れることで他店との差別化を図っている。

実際、店内では、こだわりのコーヒーを楽しめるだけでなく、70、80年代の平均的な若者が夢中になった音楽を中心に、レコードとCDが約1000枚並べられている。そして「自転車コレクター」の佐々木マスター所有のヴィンテージ自転車が代わ

る代わる展示されている。

「喫茶店という性質上、お客さんの滞在時間は長い。そのため、店主とお客さん同士で交流するには、まずは「コンテンツ」が必要になります。そのコンテンツも三つ以上ないと差別化は厳しいと思います」(佐々木マスター)と語る。

店に複数の「コンテンツ」があり、そこから会話という「コミュニケーション」が生まれ、やがて輪が広がり「コミュニティ」になる「三つのC」も忠実に実践。定期開催する音楽イベントなどは、愛好家たちが集い盛況となっている。

共伸テクニカル

しっかり魅せて飛沫対策を実現

持ち歩けるパーテーション開発

しっかり魅せて飛沫(まつ)をガード。板金加工の共伸テクニカル(相模原市中央区田名、☎042-764-4273)は、新型コロナウイルス感染症対策の補助アイテム「リップシールド」を開発した。1月中旬に発売する。

夏場は「うちわ」として使いながら、会話時には顔を覆うことで飛沫対策ができる。透明なので会話中でも本人の表情が伝わる。「持ち歩けるパーテーションです」と同社の桑原俊也社長は話している。

マスクやフェイスシールドが破損してしまったり、接客業で顔を覆えなかったりする人を想定し開発した。また、マスクをしていても、会話時に同商品を使用することで、さらなる飛沫対策にもなるという。本体部分にはアルコール消毒にも強いPET材を採用。柄はピンク、ブ



ルー、ホワイトのカラーバリエーション。

価格は1枚300円(税別)。特注で名入れが可能のため、企業のノベルティグッズとしても提案していく。年間10万枚の販売を目指す。

柳川タイヤ

台風15号被害からの完全復活

「タイヤのコンサル」として成長

タイヤ専門店、柳川タイヤ(横浜市磯子区岡村、☎045-781-6600)が、2019年9月に発生した台風15号による被害からの完全復活を遂げた。主力拠点である金沢営業所(同市金沢区)が、高波による大きな浸水被害を受け「店内を見回したときに、頭が真っ白になりました」(柳川学社長)と言うほどだった。それから1年以上が経過。幾多の苦難を乗り越え、今では取引先約250社を持つ専門店へと成長している。



タイヤ交換や修理、メンテナンス、出張サービスなどを手掛けており、「タイヤ」に関するあらゆるビジネスを展開する。「タイヤのコンサルのような存在です」と柳川社長。

主なターゲットは消費者ではなく、大型トラックやクレーン車などの「働くクルマ」を扱っている企業。具体的には、運送やリース会社、整備工場などだ。これらの企業にとって、クルマは商売道具。バンクや不具合は、業務の停止を意味する。そこで必要になるのが、同社のサービスだ。

現在「移動店舗型出張サービスカー」と名付けたサービス車を計4台保有、客先に向いて作業もする。

とはいえ、台風15号直後の浸水で店舗内の水位は65センチ、工場内は同85センチにも及んだ。商品だけでなく、4台あったサービス車も浸水。うち2台は廃車になるほどだったという。

それでも、諦めることなく地元・横浜市の補助金や産業支援機関・IDEC横浜などの協力を受けながら復旧を続けた。

柳川社長は「まずはお礼が言いたいです。いろいろな人たちの支えがあったからこそ、復興できました」と語る。こうした経験は現在のコロナ禍を乗り越える原動力にもなっている。

12月に取材した
コロナ禍でも
頑張る
中小
企業



アトリエヨシノ

バレエ衣装生地活用し製作

オリジナルマスク650枚寄贈

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

舞台衣装制作・レンタルのアトリエヨシノ(相模原市緑区とよ、☎042-682-7110)は、バレエ衣装の生地と縫製技術を生かして開発したオリジナルマスクを、市内小学校6校に対し計650枚寄贈した。同社の吉野勝恵社長が昨年11月から小学校を順次訪問して手渡した。

同社はバレエなどの舞台衣装レンタルで国内シェア7割を占める。コロナ禍で発表会や公演が相次ぎ中止になっていることを受け、昨年、新事業としてマスク製作を始めた。

現在、「アート・オブ・マスク・コレクション」として、いくつものラインナップがあるが、中でもバレエナたちのために考案された呼吸が楽なマスク「すずすずマスク」は人気商品となっている。

今回「(コロナ禍で)活動量の多い子どもたちにも、マスク着用が必要になっています。少しでも未来を担う子どもたちの呼吸を楽にしてあげたい」(吉野社長)という思いで寄贈した。

マスクを受け取り、実際に着用した市立桂北小学校の近藤ひとみ校長は「とても息がしやすく、児童にとっても活動の妨げにならず、学校生活に集中できそうです。コロナを乗り越える活力としていきたいです」と謝意を示していた。



経営 財務
営業 人事

ワンストップで問題解決。

社長の
相談役

神楽坂コンサルティング株式会社
www.kuruzo.com/ ☎03-4570-0655

社長さんが知っておきたい
冠婚葬祭のマナー

新年あけましておめでとうございます。

今年も街の葬儀屋さんとして、みなさまに冠婚葬祭のマナーを分かりやすくお届けしてまいります。どうぞ今年もお付き合いのほど、よろしくお願いたします。

大人になり何度か耳にしている言葉で、何となく理解していても、いざ、人に尋ねられた時や、その場面に遭遇した時に慌てている方も少なくないと思います。

いまや冠婚葬祭での振る舞いは、一般常識と捉えられることも多いので、今回から新シリーズで「大人の知恵袋」と題して、いまさら聞けないしきたりや、知っておきたいマナーなど、冠婚葬祭に関する基本的なことを分かりやすくQ&A方式でお伝えしていきます。

Q. そもそも冠婚葬祭(かんこんそうさい)って何ですか?

A. 日本に古くから伝わる、人生の節目に行く最も重要な儀式や行事の総称です。

文字通りその重要な儀式は4つあり、冠婚葬祭の「冠(かん)」は、昔の男子は成人の仲間になる「元服(げんぷく)」の儀式の際に、成人の証である冠(かんむり)をかぶる儀式が由来とされている文字で、現代の「成人式」のことを意味しています。

今ではお宮参り、初節句、七五三、入学、卒業、就職、長寿のお祝いなども含まれ、人生の節目のお祝いの行事全般のことを表しています。

今回は、この続きをご紹介します。素敵な振る舞いができる大人になれるよう、どうぞお役立てください。(fami友葬・清水ふじ代)

大人の知恵袋①

～冠婚葬祭って?～



KeNSiN
株式会社 建新

ALL-win

神奈川No.1住環境企業へ

https://www.kensin-inc.com/ TEL: 0120-954-326

HOME KENSO
ホーム建創 株式会社